

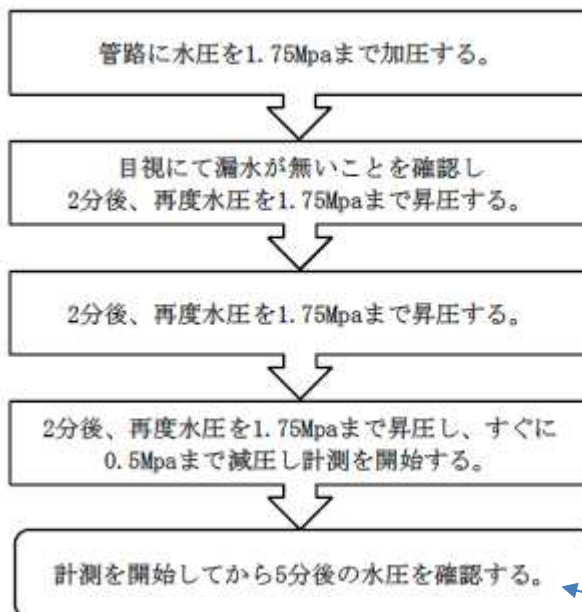
EF サドル・給水用ポリエチレン管からの水圧試験について

小田原市水道局における給水装置の水圧試験は、分水 EF サドル(止水機能付き)+片袖 PE ステンレス製フレキシブル管の接続部分において、施工時に水圧試験いたします。サドルの製造メーカーにより試験方法が異なりますので、ご確認をお願い致します。

＜給水管試験方法 — 小田原市様ご承認の試験方法 —＞

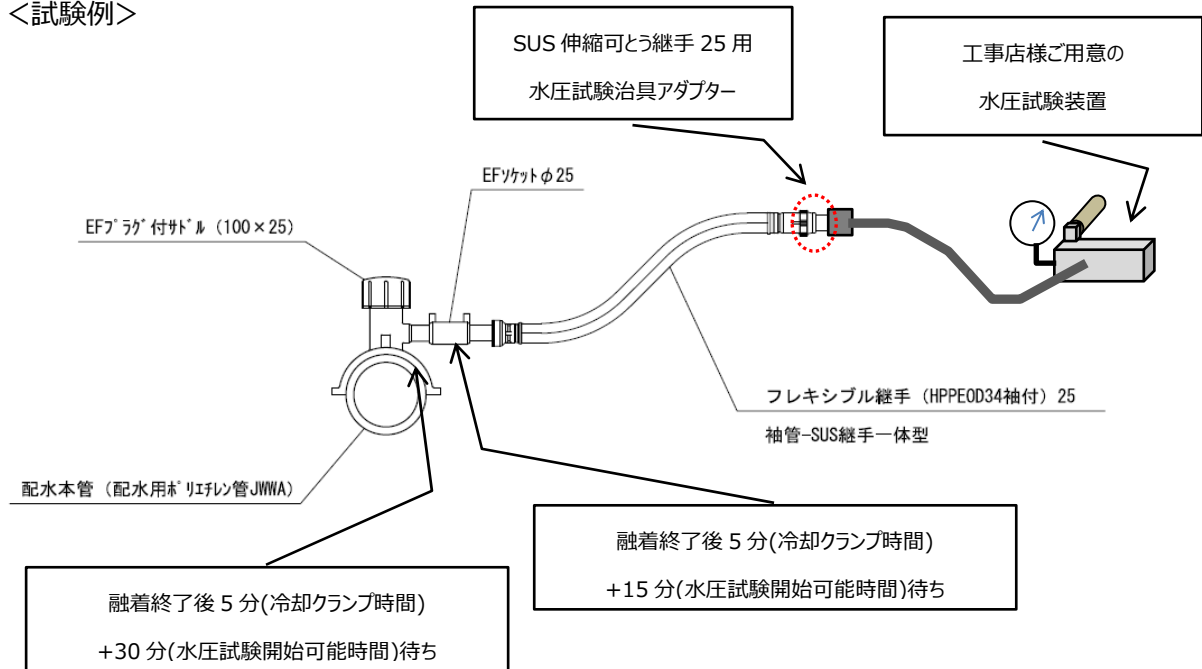
- (1) サドル穿孔済みの場合、止水栓、もしくは止水プラグで止水する。
- (2) 給水管に水張りをし、ポンプで事所定の圧力まで昇圧する。(0.75Mpa 以上 1.75MPa 以下)
※エア抜きを十分に行う ※所定圧力とは、事業体の推奨する水圧試験値に従う
- (3) 継手部、バルブ、その他にて漏水の無いことを目視にて確認する。
- (4) (2)から2分後、再度所定の圧力まで昇圧する。(0.75Mpa 以上 1.75MPa 以下)
- (5) (4)から2分後、再度所定の圧力まで昇圧する。(0.75Mpa 以上 1.75MPa 以下)
- (6) (5)から2分後、再度所定の圧力まで昇圧し、すぐに0.5MPa まで圧力を下げる
- (7) 圧力ケージにて 5分間、顕著な水圧の低下が見られないことを確認する。

分岐工事（給水管）における水圧試験フローチャート



※0.45MPa 以上目安

<試験例>



※ 2020 年 4 月以降の「サドルかんたんクランプ」は冷却終了(5 分)後も外す必要はありません

<記録>

別紙の水圧試験チェックシートに必要事項を記入し、試験監督員に提出するものとする

＜ 参 考 ＞ 2020.11.2 第1版

給水管水圧試験 チェックシート				
工 事 件 名				
管 種 ・ 呼 び 径			受付 No.	
準備	水圧試験軸の準備 ① 止水栓、またはEFプラグ付サドルに取り付け可能な水圧試験治具(業者様ご用意)を準備する。 ② EFプラグ付サドルのスピゴット部にて試験を実施しなければならない場合は専用水圧試験治具を用意する ③ 給水管(PWA規格品、1種二層管)の管部で試験を実施する場合、専用水圧試験治具またはSKX継手を使用する ※ただし、SKX継手を使用した場合の治具の締め付け部は傷がつくため、試験後必ず切り取ることが出来る寸法で実施する事			
	確認項目	注意事項	記入例	チェック
水 圧 負 荷	①水圧負荷準備	管内に水張を行いエア抜き実施(サドルキャップ部など)	○	
	②加圧 1回目	管路に水圧を1.75Mpaまで加圧する	○	
	③漏水確認	目視にて漏水が無いことを確認	○	
	④加圧 2回目	2分後、再度水圧を1.75Mpaまで昇圧する	○	
	⑤加圧 3回目	2分後、再度水圧を1.75Mpaまで昇圧する	○	
	⑥加圧 4回目	2分後、再度水圧を1.75Mpaまで昇圧後すぐ0.5Mpaまで減圧	○	
計 測	計測を開始してから5分後の水圧を確認する	0.48MPa		
	⑦水圧確認	ケージ圧の低下がほとんどみられない(0.45MPa未満程度) ケージ圧の低下が大きい	○(終了) ×(再検査)	
再 試 験	⑧再試験の条件	ケージ圧の低下が大きい 直射日光が当たっている場合にはシートなどで配管を遮光し、再度給水管内の水を20℃以下の水に入れ替える。	✓ ✓	
	⑨加圧 5回目	再度1.75Mpaで1分間加圧する	○	
		すぐに水圧を0.5Mpaまで減圧し計測を開始する	○	
	⑩水圧確認	計測を開始してから1時間後の水圧を確認する 0.40MPa 以上の場合 0.40MPa 未満の場合、不合格	○ ○ ✓	
判 定		①～⑩の手順に従い、確認を実施すること		
備 考 ※不合格の場合は再施工となるため、発注者に確認する事				
施 工 日		請 負 業 者 名	給水装置工事主任技術者	
令和 年 月 日			施 工 者	

以 上